

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292100039		
法人名	社会福祉法人 愛児福祉会		
事業所名	グループホーム三愛園		
所在地	青森県西津軽郡深浦町大字関字栃沢80-9		
自己評価作成日	平成25年12月12日	評価結果市町村受理日	平成26年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成26年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者は「介護を受ける人」ではなく、「主体的に生活する人」として、また、職員は「介護の提供者」ではなく、「生活のパートナー」として意識を共有している。 個々の生活ニーズを基にしたケアプランの作成を重点項目とし、利用者本人の持っている能力・願望・好みをニーズとして捉え、快適な生活ができるように援助する。 また、援助する職員もスキルアップ(専門性を高めること)を目指しており、内部においても、福祉理念について学ぶ研修を多く行うことにより、利用者の最新の情報も共有して介護する取り組みを実践する。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古くから地元で保育園を開設している法人であり、地域との関わりは密接である。 自然に囲まれた環境の下、保育園児達との交流の他、法人内のデイサービスの設備やマンパワーも活用しながら、職員は「愛望愛敬」という法人理念を常に頭の中に置き、日々、笑顔を忘れず、思いやりの心を大切にし、利用者が家庭的な雰囲気の中で、安心して生活していくことができるよう支援に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念は愛望愛敬であり、「児童には愛と希望を持って、高齢者には愛と尊敬を持って」という意味である。赤ちゃんからお年寄りまで、心と心のふれあいを大切に運営をしている。	「愛望愛敬」という法人全体の理念を事務室に掲示している他、「家庭的な雰囲気を利用者の皆さんと笑顔と笑顔の心豊かな交流」というホームの目標も掲げ、共有スペースに掲示する等して共有化を図っている。職員は理念と目標に込められた意味をよく理解し、地域との関わりを大切にしながら、利用者最優先のケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念とは経営者と職員の心のあり方であり、その行動、言動を通して、利用者や地域の方々に浸透するものである。その徹底のために、毎月経営者、職員でのスタッフ打ち合わせを開催している。理念を意識して接遇できるように掲示し、周知を図っている。	法人の第三者委員になっている近隣住民が、度々ホームを訪れている他、法人内の保育園の園児がホームの誕生会に参加したり、地域の小学生の訪問もある。また、利用者が近くの診療所へ通院した際は、ホームに立ち寄ってもらえるよう地域住民に声がけしたり、地域の行事等にも積極的に参加し、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場や地域連絡会議において、認知症のケアについて、個々の事業所だけでなく、社会全体で見守る姿勢が大切であるという観点で発言している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の自治会長や民生児童委員がメンバーであり、会議の場で評価についても説明を行い、理解をしていただいている。また、地域の特徴を活かした活動を行うように、委員の助言を大切にしよう心がけている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、開催前月末までには案内を送付し、メンバーが予定を組みやすいよう配慮している。地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員等のメンバーは、会議の意義・役割をよく理解しており、ホームから利用者の生活状況や行事等の活動報告を行うと共に、メンバーからは毎回、積極的な意見・提案や地域の情報をいただいております、サービス向上に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者が実地指導を含めて数回訪問してくださっている。また、メール等を利用して事務連絡が行われ、回答している。運営推進会議には毎回、町の職員が参加している。	実地指導等で行政担当課職員の訪問があり、必要に応じて電話やメールでも連絡を取り合っている他、広報誌や自己評価及び外部評価結果等を提出している。地域包括支援センターが近隣にあり、日頃から連携を密にし、情報交換等を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同意書は用意しているが、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。実際に今まで行ったことはない。	管理者は職員が身体拘束の内容等を十分に理解できるよう、職員会議や日常業務の中でも、具体例を基に説明しており、「身体拘束は行わない」という姿勢で日々の支援に取り組んでいる。玄関は夜間以外施錠せず、職員の連携で外出傾向の察知に努め、必要時には一緒にホーム周辺を散歩する等して、利用者の自由な暮らしを支援している。また、万が一の無断外出時に備えて、近隣住民や近くの診療所・交番にも協力をお願いしている他、やむを得ず身体拘束が必要となった場合には、家族の同意を得て、理由・方法等を記録に残す体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については重要と考えているので、外部・内部研修を実施し、未然に防ぐように取り組んでいる。地域包括支援センターとの連携を重要と考え、虐待を見過ごすことのないように、地域ぐるみの運動として取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	紹介された時は訪問し、本人と家族に不安を抱かせることのないように十分に説明し、見学に来てくださるよう勧めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来た時に意見を出していただけるようお願いしている。重要事項説明書に担当者を明示している。また、広報には外部の相談先を明示している。	利用者が意見や要望を話しやすい関係づくり・環境づくりに努めている。毎月、請求書と一緒に広報誌と職員からの手紙を郵送し、利用者のホームでの様子を伝えている他、家族面会時には利用者の近況を報告しながら、意見や要望が聞けるよう働きかけている。また、意見等があれば、速やかに話し合いの機会を設け、全職員で共有しながら、ケアに反映させていく体制にある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で運営や行事予定、利用者の状況等の様々な意見が出され、それらの中には意見や提案等もあり、できる限り反映するようにしている。	日々の業務の中で問題点等があれば、いつでも職員同士で話し合ったり、管理者に話をすることができる他、月1回の職員会議でも意見交換ができる環境にある。また、職員が利用者全員の状況を把握して理解できるように、担当を変更することもあるが、その際は、職員の意見を聞きながら、利用者へ与える影響等に配慮して行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員にとってのスーパーバイザーであり、管理者にとっては理事長がスーパーバイザーである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を聞きながら、年に一回は外部の研修を受講するようにしている。また、資格取得希望者には配慮し、目標達成を応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームと交流会を実施している他、地域ケア会議等を通して情報交換を行っている。日本グループホーム協会に入会しており、青森県支部主催も含めて研修会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や担当ケアマネージャー等の情報を取り入れて、職員の意見を聞き、十分に情報を活かしたアセスメントを行い、信頼関係を重視した関係づくりを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望を取り入れて、利用者と同じように、信頼関係を重視した関係づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活のこと、医療や介護のことをよく見極めた上で支援するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は「介護を受ける人」ではなく、「主体的に生活する人」として、また、職員は「介護の提供者」ではなく、「生活のパートナー」として意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはたくさん訪問していただけるように声がけをしている。利用者を支援するために、場面場面で家族に相談して、進めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が安心してサービス利用できるように、事前に本人や家族に聞き取りをしている。医療機関や理・美容院等も馴染みの所へ行けるように配慮している。職員はいつでも利用者の視点で家族と話し合い、調整している。	事前に本人・家族から聞き取りをしている他、入居後も日々の会話等を通して情報収集に努め、お互いの気づきを職員間でも共有しながら、利用者が馴染みの関係が継続できるよう支援している。家族・親戚・知人等に自由に面会していただいている他、電話の子機を使い、居室で気兼ねなく話ができるよう配慮している。また、馴染みの美容院・床屋、空き家になっている自宅への短時間の帰宅等、希望があれば、職員の勤務を調整して支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「主体的に生活する人」同士が、お互いをよく理解し合えるように関わっている。しかし、性格や価値観の違い等から摩擦が起きることもある。職員は非審判的態度で、傾聴～受容～共感して支えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した方への支援として、便り等を持って訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴・外出・食事等、いろいろな場面で、決して急がせることはせず、利用者の希望をよく聞き、利用者のペースで支援することを心がけている。	日々の関わりを通して、利用者一人ひとりの状況を注意深く観察し、必要な時は1対1でゆっくりと話ができる場面をつくり、思いや意向の把握に努めている。利用者同士の何気ない会話や、家族・友人が面会に来た際の会話からも情報を得ている他、通院時に会った地域住民等からも情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常の会話等から情報を得て、支援に役立てるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者は皆で食堂で寛いでいる。個室も環境がよく、外の景色がよく見えて、居心地が良い。自由に思い思いの物を持ってきており、不自由さはない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成しており、その基となるアセスメントも行っている。具体的な内容のため、職員、家族等の連携をとり、その時に合った介護計画作成を行っている。	担当職員が主となり、利用者の状況観察や意見の把握に努めており、職員会議で意見交換を行った上で、個別の介護計画を作成している。家族からは面会時や電話連絡の際に、意見を聞けるよう働きかけている他、利用者の状況や家族の希望等の変化に応じて、随時、介護計画の見直しを行う体制となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った視点で記録している。計画にないようなことも起きることもあることから、職員間で十分な連携を図り、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて、通院の送迎・理美容院への外出支援等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域を散歩したり、隣接地の保育園やデイサービスとの交流を行っている。プライバシーに配慮しつつ、認知症を理解していたけように、地域の方々に啓発活動も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関を、継続して受診できるように支援している。受診後は家族に報告しており、情報の共有が図られている。	入居時にこれまでの受療状況を把握すると共に、入居後の希望についても確認しており、ホーム近隣の診療所への受診の他、個々に希望する医療機関への受診にも職員が付き添い、支援している。受診結果はその都度家族に電話で報告し、必要時には家族にも受診に立ち会っていただきながら、情報の共有を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置されていないが、法人内の他の事業所の看護師に相談している。また、診療所の看護師より、具体的な助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室等と連携し、入退院時の情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃の連携はできているが、近隣病院でも医師不足は深刻な問題であることもあり、まだ、ホームでのターミナルケアに向けた連携やマニュアル作成までには至っていない。しかし、管理者と利用者、家族とは話し合いが持たれている。	重度化や終末期の対応は行っていないことを入居前に家族に説明し、ホームでの生活が困難になった場合に備え、介護老人保健施設や特別養護老人ホームへの申し込み等もアドバイスをしている。ホームでは、常時、医療行為を必要とする場合以外、可能な限り、利用者及び家族の希望を踏まえて対応するように努めており、近隣の診療所は24時間連絡が可能で、必要時には看護師に相談できる体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の個別の状態に応じて備えている。緊急時は主治医と家族に連絡し、必要があれば、救急車を要請することを話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時は町の指定する場所に避難する体制である。夜間は1人なので、近隣に住む職員が駆けつけることになっている。10月には夜間の火災を想定した総合訓練を実施した。	年2回、日中及び夜間想定で避難訓練を実施し、訓練終了後は全職員で改善点等を話し合う機会を設けている。近隣住民や交番等に日頃から声がけし、災害時の協力を働きかけている他、設備点検も年2回、業者委託により行っている。また、食料・飲料水・石油ストーブ等、災害時に備えた物品も準備している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に気を配っている。特に、言葉遣いについては管理者から注意することもある。各室の表札については利用者にとっては有効であるが、訪問した方や地域の人等に対しては十分に配慮している。	個々のペースに合わせたケアを心がけ、声がけの仕方や言葉遣いにも注意を払っている。管理者は、職員会議の後に接遇に関する話をしたり、業務の中で気になる言動があった時は、その都度注意する等して、利用者を尊重した支援に取り組んでいる。また、個人情報に関する書類は外部からの来訪者の目に触れないよう、事務室の書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いを把握し、職員間の情報の共有を大切にしており、利用者本位で生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを最優先して、接するように努めている。一人ひとりに合ったペースで暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴や習慣、希望、利用者の趣味に合わせ、利用者のおしゃれや楽しみごとを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから調理まで、利用者の能力に合わせて一緒に取り組んでいる。食事は、会話しながら、良い雰囲気で行うように努力している。	事前に本人や家族から聞き取りし、入居後も日々の会話等を通して、好き嫌いを把握するよう努めており、必要に応じて代替食を用意する等、誰もが食事を楽しめるよう配慮している。職員は利用者が楽しく食事できるよう見守り・声がけをしながら、必要な介助を行い、利用者には可能な範囲でテーブル拭き等を手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に調理師がおり、利用者一人ひとりの栄養バランスに配慮している。利用者の体調等も把握し、その時に合った支援ができるように努めている。水分は1,500ccを目安としている。また、摂取量に関しては、必要がある方は個人ファイルに記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個室に洗面所があり、歯磨きや入れ歯清掃を自分でできる利用者には、毎食後、声がけによって行っている。困難な方には職員が一緒に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の自立は課題の一つである。利用者には排泄を失敗することもあるが、職員はさりげなく、そして、根気強く支援している。	起床時・食事前・就寝前等、おおまかな定時で排泄を促す声がけを行い、できるだけ失敗なく、トイレで排泄できるよう支援している。また、排泄の失敗があった時は小声で声がけする等、周囲に気づかれないよう配慮し、さりげない対応を心がけている。	排泄の有無以外にも、毎日、時間毎の排泄状況を記録する等して、利用者個々の排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けて、更なる取り組みを行うことに期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬を服用している方もいるが、便秘気味の方には、水分と食物繊維を多く含んだ食品をたくさん摂っていただくよう、声がけをしたり、適度な運動をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回、1対1で介助して入浴していただいている。回数や入浴時間、介助方法について、不満が出たことはない。現在は入浴を拒否する利用者はいない。	入居時のアセスメントや日々の会話から、入浴習慣や好みを把握し、体調にも配慮しながら、できるだけ利用者の希望に沿った入浴ができるよう支援している。また、羞恥心やプライバシーに配慮して支援を行っている他、利用者の身体状況に合わせ、法人内のデイスサービスの機械浴を利用することも可能な体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分で管理できる方はいないが、職員がその都度手渡して、自分のタイミングで服薬できるように見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣、希望、利用者の能力に合わせて、何が楽しみ事になり得るかを把握しながら、支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等、積極的に外出の機会を設け、利用者に外出の喜びや楽しさを提供している。	冬期間以外は気分転換とリハビリを兼ねて、日常的にホーム周辺の散歩をしたり、希望があれば、近くをドライブしている。利用者との会話等から行きたい場所を把握し、行事担当の職員が中心となって、移動方法や移動距離等にも配慮の上、外出を計画している。また、外出計画は広報誌等で前もって家族にお知らせする他、ボランティアとして協力も得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等、一定金額を所持していただき、自由に使ってもらっている。多くの方は職員にいろいろ聞きながら、買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームから家族に電話する時は、プライバシーを尊重しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にしている。窓からは診療所や保育園、小学校、JA等が見え、人々の日常生活が感じられる。	ホールには食卓テーブルや椅子の他、ソファも置かれ、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮している。窓からの日差しと照明により、適度な明るさが保たれている他、テレビの音量や職員の作業音・話し声も騒がしすぎることなく、利用者は穏やかに過ごしている。また、季節に合わせた装飾や写真が掲示され、季節を感じてもらえるよう工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	木材がふんだんに使われて、家庭的な雰囲気である。周囲の風景は素晴らしく、岩木山も見え、いつでも季節を感じながら生活している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた調度品等を持ち込めるように働きかけを行っており、テレビ、衣装ケース等を持ち込んでいる。行事の写真や手作りの作品等を飾っている。	新しい環境に早く馴染んでいただくよう、使い慣れた物や馴染みの物の持ち込みをお願いし、入居後も必要な物があれば、その都度家族に連絡をしている。持ち込みが少ない場合は、ホームの行事で撮った写真や手作りの作品を飾る等して、その人らしく、穏やかに暮らせるような居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自火報設備やスプリンクラー設備があるが、いざという時は皆の協力が必要であると思う。定期的な避難訓練も行っている。		